

4月21日、多摩ニュータウン内の清水入緑地で4月の野鳥定期カウント中にランヨウアオイの花に出会いました。この草は山地や丘陵の林内に生える常緑の多年草、花は紫褐色で半ば埋もれているかの状態で咲いていた。和名の「乱葉」は、葉に雲紋があるものが多いことが由来とのこと。カンアオイやタマノカンアオイと同じ仲間である女神ギフチョウの食草です。

紅葉台



新聞

第240号

2026年
6月27日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



毎年4月初めに江の島の七里ガ浜を歩いて、砂浜に打ち上げられているワカメの株を拾って来ます。生ワカメは拾ったままの状態では茶色っぽいですが、湯通しすることで鮮やかな緑色になり、美味しく食べられます。今年も生ワカメを拾いに行きましたが（4月13日）、今年は打ち上げられていたワカメがわずか、ほんの少量しか拾えませんでした。砂浜にはハマヒルガオやハマダイコンの花が咲き、イソヒヨドリが電柱などでよく鳴いていました。

4月の月例探鳥会で八王子・北浅川の上流部を歩きました（4月12日）。川原に生えているハナダイコン（ショカツサイ）の花の中からキジが顔を出してくれました。ゴール地点の公園でカワセミ会が発足して10年目（今から30年前）に記念植樹をした桜の花の下で花見をしました。



NPO やまぼうし自然学校が主催する「都内森めぐりコース」を受講しています。植物、特に樹木を勉強するための受講です。4月から月1回で計6回、都内の公園で開催、第1回は4月14日、目黒の自然教育園で森林インストラクターから学びました。クスノキ科の樹木から学習が始まり、知らなかったことを多数

学びました。園内には野草も多種、開花していました。この写真はその内のエビネとチョウジソウ（淡いブルーの星形の花）で



4月15日、地元発見探鳥会ということで、高尾駅南口から歩いて行ける初沢城跡とその周辺を歩きました。ウグイスがしきりにさえずる中、マルバアオダモの白い花の塊が目立ちました。丸葉の意味は葉縁に明瞭な鋸歯がなく滑らかであるためだとか、アオダモの「青」は枝を

切って水につけると水が青くなることから説明がありますが、野外の花を無断で切ってくるわけにもいかないので、実験ができないのが残念です。

旧甲州街道を大月から初狩まで歩きました（4月17日）。この写真は途中の富士山道への分岐点です。新緑のケヤキの大木が3本鎮座していました。江戸時代の

富士山詣でではこの分岐から富士山を目指したものと思います。大月から初狩までの間で磯の鳥イソヒヨドリに8カ所でお会いしました。今やこの鳥は八王子だけでなく、こんなに内陸まで進出していることに驚きました。



しっかり管理された雑木林にはキンランが咲きます。この写真は4月20日、八王子・宇津貫で撮ったものです。写真上はコナラの株の周りに集団で開花中の様子、下は大きな株の開花です。キンランは野生ランでコナラと共にラン菌と共生しているのでコナラの株元が大好きです。宇津貫の雑木林では他にギンラン、ササバギンラン、エビネランも開花中、日本に到着直後のキビタキも鳴いていました。



春の七草ホトケノザの正体はコオニタビラコと言われています。4月24日、八王子・川町谷戸ではコオニタビラコが田んぼ一面に咲いていました。この写真には写っていませんが、花の周りにはベニシジミやモンキチョウが飛び交い、雑木林からはウグイスやコジュケイの賑やかな声も聞こえてきました。

好きに ♥ 生きる

にしいあんこ 日本あんこ協会会長

なぜあんこが好きなのかとよく聞かれる。確かにあんこを食べることも作ることも大好きだ。その存在自体が神々しい。しかしなぜ好きかと問われると答えるには困難で言語化しづらい。

そもそも「好き」に理由などない。例えば読書が好きな人にその理由を問うたとしても、本当に好きな人に理由などない。せいぜい楽しいからと返ってくるくらいだろう。もし読書することで知識が増え、仕事や日常に役立つからなどと言おうものなら役に立たない読書は好きではないことになる。それは真の読書好きではない。昨今役に立たないことやお金にならないことを無駄と揶揄して排除する傾向にあるように思う。功利主義に走ってはいけない。好きがさらに因数分解できるのであればそれは本物の好きではない。理由のない好きをやってみよう。わけはわからないけど、楽しいのならやり続けよう。あんこという大好きな食べ物と真剣に向き合い、私が気づいたことである。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。